

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2770103782		
法人名	社会福祉法人 関西福祉会		
事業所名	陵東館秀光苑		
所在地	大阪府堺市北区長曾根町1199-6		
自己評価作成日	平成 29年 12月 14日	評価結果市町村受理日	平成 30年 5月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2770103782-008&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 2月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人、一人がかげがいのない関りが出来る事、そしてそれは利用者だけでなく、職員もそれに含まれること。
利用者、一人、一人、そして職員もその個性を活かした関りがもてるようにすることを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立後35年、地域に貢献してきた社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。同法人は地域包括支援センター、特別養護老人ホーム、高齢者在宅事業全般を行い、連携した取り組みを進めています。ホーム内は清掃が行き届き、居室は明るく見晴らしの良い環境となっています。職員の定着率が高く安定した運営を進めています。利用者は穏やかで、職員は利用者の自主性を尊重し、利用者一人ひとりが役割を持って自分らしく生活できるように支援しています。お祭りや花見など地域行事には積極的に参加し、法人行事の紅葉祭、納涼祭では多くの地域住民の参加を得て地域交流を進めています。保育所との交流、小学校行事への参加、中学校の職場体験授業等を通じて利用者との世代間交流を進め、多くのイベントや行事を通じて地域ボランティアとの交流も図っています。提携医療機関と連携して健康管理を行い、緊急時にも対応できる体制を整えています。地域や家族との連携も良く、法人のバックアップを受けて、さらに質の高いサービスの提供に取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。また、それを実践につなげる事を意識して関わることを職員全員で声を掛け合っている。	理念には「地域の中で共に支えあい、地域と共に歩む」を基本に「ゆったりとした自由な暮らし、穏やかでやすらぎのある暮らし、自分でできる喜びを感じる暮らし、自分らしさや誇りを持った暮らし」を掲げています。職員は理念をホーム内に掲示し、パンフレット等にも掲載して共有しています。ホームでは理念に沿った利用者支援が継続できるよう、職員間で話し合い実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域運営推進会議を通じて、自治会などのイベントに定期的に参加している。また法人行事の紅葉祭、納涼祭には地域住民の方の参加もされており日常的に交流している。 近隣の保育園児との交流会などもあり、世代間の交流を図れるようにしている。	お祭りや花見など自治会行事には積極的に参加し、法人行事の紅葉祭、納涼祭には多くの地域住民の参加を得ています。保育所での餅つき大会、小学校行事への参加、中学校の職場体験授業等を通じて利用者との世代間交流を図っています。近隣のレストランやスーパー等に出かけて顔なじみの関係になっています。同法人デイサービス利用者との交流、多くのイベントを通じて地域ボランティアとの交流も図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>過去に介護教室にて地域の方へ認知症についての芝居などを行ったことなどはあるが、近年は無く今後検討が必要である。まずは入所者の家族に向けた支援や指導の機会を持つように取り組み、また地域運営推進会議を通じて家族や地域支援者の思いを聴き、事業所として出来る事は無いか探していきたい。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議にて状況報告は必ず行い、困難事例などがあれば意見を求め、反映するようにしている。 行事や外出などについての意見を求め、それらを参考にして行事や外出等に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は、開催規程に沿って2か月に1回、年6回開催しています。参加者は利用者、利用者家族、地域住民代表(民生委員や近隣者)、地域包括支援センター職員、知見者、ホーム職員等で、毎回10名以上の参加があります。会議ではホームより利用者の生活状況や支援状況を報告し、参加者より評価や意見を得てサービスの向上に繋げています。地域の情報に詳しい参加者が多く、毎回地域の祭りやイベント情報を得ることができ、利用者の外出企画に活かしています。会議内容は議事録を作成し、家族にも送付しています。管理者は運営推進会議の開催により地域連携が進んでいることを実感しています。</p>	<p>運営推進会議開催規程に守秘義務条項を追加し、参加者の協力を得るようにしてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>基幹型包括や市町村関係者とは事業所の運営などについて、疑問や相談したい内容があれば、すぐに連絡・相談を行うようにしている。</p>	<p>管理者は市職員や基幹型包括支援センター職員に何かあれば相談をして、アドバイスを受けています。管理者はグループホーム連絡協議会に参加し、研修会開催時には職員も一緒に参加しています。また、認知症介護指導者として研修の講師等を務め、市事業に協力するなど、認知症介護の質の向上に尽力しています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人内に身体拘束委員会を設置している。勉強会にて事例を挙げて意識の確認を行い、防止に努めている。また、困難事例があった場合には職員間での情報を共有し、随時カンファレンスを行っている。 施設の玄関は特別の事情を除き、他部署と連携を図り、日中は開錠している。</p>	<p>管理者は身体拘束をしないケアの重要性を十分に認識し、マニュアルを整備して職員の意識向上に努めています。職員は毎月開催される法人主催の身体拘束防止委員会に参加し、会議内容を職員会議で報告し、回覧等で全職員に周知しています。日常の利用者支援については職員間で確認し合い、拘束をしないケアに取り組んでいます。自由な生活を支援するために、エレベーターは施錠せず、階段も利用しやすく工夫して、利用者が自室のあるフロアと居間を行き来できるようにしています。同法人特養に繋がるホーム出入口も自由に行き来できます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に高齢者虐待防止委員会を設置している。委員会を中心に全職員が学ぶ機会として、法人内での勉強会を行い参加している。また、参加できていない職員には記録を回覧して、周知できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や文献、法人からの情報などで学んでいる。法人内で研修を実施しており、それにすることで学ぶ機会を作っている。また機会があれば研修に参加し、研修記録を職員間で回覧して周知できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明を行い、質問はないか尋ねている。また、質問はなくても、入退所の条件、特養への移行の件、病院との連携の件など、不安に感じやすい件などくわしい説明を心掛けている。また、入所後も家族より、疑問、質問があれば対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に、地域運営推進会議、家族会などが、意見を汲み取る場であり、運営に反映されるようにしている。日常的な家族の面談時にさりげなく、要望を汲み取れるよう努めている。	ホームでは家族との信頼関係を大切にして、家族との良い関係作りにも努めています。3か月に1回、利用者の暮らしぶりを、写真入りの便りにして家族に知らせています。家族の訪問は多く、職員はその都度利用者の状況を説明し、要望や意見を聴取して利用者支援に活かしています。年に2回家族交流会を開催して要望等を確認し、ホーム運営や利用者支援に活かしています。	ホームでは、入居後の利用者と家族の関係が希薄にならないよう、利用者や家族の絆を大切にし、共に支えていける関係作りを進めたいと考えています。そのために職員と家族が十分に交流できるよう「家族と職員の会」を作ることも検討しています。今後、取り組みの成果が期待されます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なカンファレンスや職員会議、勉強会を実施しており、そこで職員からの意見を聴く機会を設けている。それらの意見を管理者や主任、リーダー職員で検討し反映できるようにしている。	毎月、法人全体の職員会議、ホーム職員会議を開催し、議事録を作成して共有しています。職員は会議で自由に発言し意見を出し合っています。イベント、行事等については職員が自由に企画立案することができ、職員間で話し合い、管理者の了承を得て実施しています。法人のバックアップを受けて、職員の定着率が高く、職員間のチームワークも良いことから、質の高いサービス提供につながっていると評価できます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は前年度に比べ、休暇を1日増やし、なおかつ勤務状況と兼ね合いを考えつつ、今後も増やせないか検討している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の経験が無い職員にはなるべくその機会を設け、無資格者には初任者研修の受講をすすめるなど、何らかの資格・自信をもってもらうようにしている。また、職員の経験年数や実力に応じたステップアップになるべく研修の情報を積極的に現場へ発信している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北区グループホーム協会での会合や勉強会があり、意見交換会をすることで、ネットワーク作りやサービス向上への取り組みに活かしている。 研修や実習で関わる事ができた同業者の施設へ訪問する機会を作り、意見交換やサービスへの取り組みを参考にし、自施設においてサービス内容や業務内容に活かしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に情報収集をしながら、本人の元を訪れ不安点や困っている事に耳を傾け、意向や希望を受け止める姿勢を大事にしている。 また共有の時間を通じて信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に情報収集をしながら、家族の元を訪れ不安点や困っている事に耳を傾け、意向や希望を受け止める姿勢を大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に聴いていた意向、希望を含めて、今必要な支援は何かという事を、職員間で随時話し合っている。緊急性を見極め、法人全体で支援を行い、その上でサービスに繋がるよう対応に努めている。初期段階では24時間の生活チェック表を1週間はつけ、本人の生活リズムの把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に暮らしているという事を常に意識しながら、多くの事を知っている人生の先輩として学ぼうとする謙虚な姿勢と敬う気持ちを大切にしている。家事や生活の身の回りのことを一手に引き受けるのではなく、お互い役割分担できる箇所を探し、共に支えあえるようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日頃より情報の共有に努め、本人を含め家族の意向を大事にしたサービスの提供を心掛けている。本人と家族の絆を大切に、共に支えていける関係作りを築けるように努めている。家族自身が面会しやすい雰囲気作りに努め、本人が家族と過ごせる時間がつくれるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>定期的に行っている家族会に、友人や知人が参加されている。また、知合いの訪問美容師が定期的に訪問され、馴染みの関係が途切れないよう関りを大切にしている。</p> <p>外出や買い物などの活動を適宜取り入れ、馴染みの場所や店、街並みなどへ出向き、関係が継続できるよう努めている。</p>	<p>友人、知人の来訪時には利用者とゆっくり話ができるように配慮しています。訪問販売や訪問美容師等を活用し、馴染みの関係を継続しています。近隣のレストランやスーパー等に出かけて地域の人々と顔見知りになれるよう取り組んでいます。家族や大切な人と電話や手紙でやり取りができるように支援しています。希望があれば携帯電話の所持も可能です。ホームでは利用者が各種選挙にも参加できるように支援しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者の個性や想いを理解し、日々、利用者同士の関係の良し悪しを様子観察する中で、孤立やトラブルがないように努めている。その上で職員が中継ぎとなり、良いところはもっと良く、あまり相性が良くない利用者同士に対しては調整するように配慮している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自法人の他のサービスへ移行された利用者とも引き続きあいさつや声を掛け合い、また行事等への参加も含めて関係性を継続させている 以前、入所されていた利用者の家族がボランティアで来られたり、地域推進委員会に参加されたりと協力的に関係づくりに努めている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の希望や要望を意識し、意見を傾聴する時間を大切にしている。生活の中で垣間見るや表情や言動などから本人の気持ちの理解に努め、その生活が本人本位になるように支援している。	日常的なかかわりの中で利用者の意向を聴取し、職員間で共有し支援に活かしています。言葉で表現しにくい場合には表情やしぐさで意向を確認するなど、それぞれの状態に合わせた支援をしています。利用者の意向が日によって変わる場合もあり、その日、その場の意向も確認するようにしています。遠慮がちな利用者には職員から声かけをして意向を表現しやすくしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族にフェイスシート(生活歴や既往歴を記すもの)を記入してもらい、情報収集に努めている。以前から利用していた事業所などがあれば、可能な範囲でそこからも情報収集に努めている。また、家族面会時にも詳しく話を聴くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画をもとに、一人一人に応じた生活が送れるようにしつつ、日々変化する気持ちや行動にも留意し、臨機応変に職員が対応できるような体制を整えている。ケース記録を活用し職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族からは随時介護に関する意向を聴き、反映させると共に、現場職員の意見も大切にしている。アセスメントを含めたモニタリング、カンファレンスにて、本人がより良く暮らす為の課題をしっかりと把握し、ケアのあり方について検討し介護計画の作成を行っている。</p>	<p>介護計画書作成時には本人がより良く暮らす為の課題をしっかりと把握するよう努め、ケアのあり方について検討しています。事前に利用者・家族の意向を確認し、アセスメントをして、職員の意見を聴取しています。カンファレンスには可能な限り家族の参加を得て意見反映し、必要に応じて医師や看護師、管理栄養士にも相談しています。介護計画書は目標に沿って実施記録を残し、モニタリングをして6か月を目途に見直しをしています。状況の変化が著しい場合には、その都度見直しをして状況に沿ったプランを作成しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録に介護計画の内容を反映し、ケアの実践を記録すると共に、介護計画の見直しに活用している。また日々の生活の様子やケアの内容を記録し、職員間の情報共有や情報収集に活用している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況に応じて、通院等の必要な支援には柔軟に対応している。医療連携体制を活かし、早期退院の支援、退院後の回復への支援、薬剤の検討、医療処置を受けながらの生活継続を行っている。</p> <p>特に歯科医は協力機関であり、本人や家族が納得できるまで治療、処置を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事や校区の催しなどに参加したり、ボランティアの受け入れや家族、友人、職員の家族が自由に入出入りできる雰囲気を作ることで、地域との交流を図っている。また、外出の機会と共に、近隣の商業施設などを活用し、本人の生活が豊かになるよう支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>施設管理医師、看護師と連携を図り、必要に応じた医療機関へ受診している。また、家族の協力も得て、希望があれば以前より通院していた病院へ継続していけるように対応している。</p>	<p>利用者・家族の希望する医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。利用者・家族の希望があればホームが提携する医療機関の往診を受けることができ、緊急時にも対応できるようにしています。眼科、歯科、整形外科等、入居前からかかりつけている医療機関に家族が付き添い受診している利用者もあります。家族の都合がつかない場合や緊急時等には職員が付き添い支援をしています。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の関わりの中で変化や気づきをすぐに看護師へ伝え相談している。それぞれの利用者が適切な受診や看護を受けられるよう早期発見に努め、速やかに看護師や提携医療機関などへ相談・情報提供を仰ぐようにし、協力を得て必要な医療が受けれるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力病院である植木病院の相談員とは情報交換に努めており、独居の不安のある退院者が秀光苑へ入居のきっかけとなったこともある。また、協力病院以外の場合でも相談員と連携を図るようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>身体の状況やADLの低下などは家族になるべく受け入れやすいように伝える事を心掛けている。法人の母体は特養であり、入居の際には基本的には看取りは行わず、特養への移行を勧める旨を伝えている。</p>	<p>重度化した場合の対応については、入居面談時に「看取り支援は行っていない」状況を説明して、利用者・家族の合意を得ています。重度化した場合の対応として、事前に特養入所の申し込みをされる家族もあります。重度化した場合には家族の希望に沿って話し合い、医師や看護師と相談して、特養や病院等適切な療養の場へ移行できるよう細やかな支援をしています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急連絡網、入浴時の急変時対応表、体調不良時のチェックポイントを置き活用するようにしている。勉強会などで、職員は救命処置について講習を受けている。また、応急手当や緊急時の対応についても話し合い、マニュアルも目の届くところに配置している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に利用者と共に避難訓練を行っている。校区の消防署にも参加してもらい、助言や確認をしてもらっている。 その都度、マニュアルに追記や訂正を加え、改善にも取り組んでいる。</p>	<p>防災対策マニュアルに沿って、消防署と連携し、法人施設合同の避難訓練を実施しています。昨年は独自の避難訓練を含めて年4回の訓練を実施しています。ホームは6階建てで、2階～6階部分を生活の場としており、各階の非常口の確認、誘導場所等を職員に周知徹底しています。利用者にはホームを取り囲むように設置しているベランダが避難場所であることを説明し、3ヶ所ある出入り口から避難を開始し所要時間等を確認しています。非常災害時の備蓄については同建物内の1階に備蓄室を設け、隣接する特養も含めた備蓄量を保管しています。グループホーム用にも2～3日分の乾パンや水等を保管していますが、独自の備蓄リストは作成していない状況です。</p>	<p>今後はグループホーム独自の備蓄リストを作成することが望まれます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉使いだけでなく声の大きさや表情にも注意できるようにしている。また、適宜社内研修や勉強会を行い、常に自身やお互いの言葉使いや対応を意識し、指摘し合えるようにしている。個人情報やケース記録は厳重に保管し、知り得た情報を他で話す事が無いようにしている。	利用者一人ひとりを大切にされた対応や言葉かけをしています。法人内会議や研修を行い、職員が接遇について学習する機会を設けています。職員間では常に適切な言葉使いや対応ができるよう注意喚起しています。個人情報の取り扱いについては運営規程に明記し、従業者の雇用契約として、職員が退職した後にも秘密保持を義務付ける内容にしています。記録等は保管場所を決め、厳重に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を尊重すると共に、自ら意思表示をしにくい方からは、普段の会話や仕草、表情から汲み取るように心掛けています。思いや希望をストレートに表す人、遠慮がちに話す人、後から伝えてくる人など個々に応じた自己決定の支援を行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、消灯の時間など一応設けているが、本人の希望や体調、ペースに配慮しながら柔軟に対応している。また日々の活動や外出、生活において常に本人の意思を確認し、希望にそえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、また外出時など、その都度意識して、その人と会話をしつつ服を選んだり身だしなみを整えたりしている。家族にも依頼して服を購入してもらったりしている。 訪問理容を活用し、定期的に散髪している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや、食事の好き嫌いも配慮しながら、なるべく全員が美味しく食べることのできるメニューを考えている。好き嫌いがある人は、家族の協力も得て、本人が好む食材を持って来てもらい提供している。 また食事一連の過程の中で、何らかの役割を持つように働きかけている。 季節やイベントに応じ趣向を変え、一緒におやつ作りをしたり外食や喫茶などをして楽しんでもらえるよう努める。	朝食、昼食は隣接する同法人特養の厨房で作られた食事が運ばれ、利用者と職員がホーム内で盛り付けをしています。夕食は食材と献立が搬入され、職員が利用者の希望を反映して献立をアレンジし、利用者と共に食事作りをしています。利用者は盛り付け、配膳、後片付け等、得意なことで役割を持ち取り組んでいます。職員は利用者のペースを尊重し、話題を提供しながら夕食を一緒に食べています。おやつ作りでは材料を購入することから利用者と共に出かけ、手作りを楽しんでいます。レストランや回転寿司での外食、喫茶店で茶菓を楽しむ、各県のグルメフェア、ラーメンを味わう取り組みなど、趣向を凝らした支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は記録に残して、職員全員が把握出来るようにしている。 一人一人の状態により、形状や調理法を工夫しており、摂取量の低下が見られた方に関しても、看護師を交えてのカンファレンスを行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態や、本人の力に応じて必要な物品を準備し、本人が取り組めるように声掛けや支援をし必要なケアを行いサポートしている。 必要に応じて、歯科受診をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の生活リズムの自然な流れで、トイレでの排泄が可能になるように、利用者からのサインを見逃さないよう、排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めている。また、紙パンツやパット類も本人に合わせて、検討、見直しを行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して利用者の状況に沿った支援をしています。自立に近い利用者の場合はそっと見守り、排泄後に状況を確認したりしています。職員のさりげない誘導や声かけにより失敗も少なく、スムーズな排泄が可能となっています。おむつ類は職員間で検討し、家族とも相談して利用者に適したものを使用しています。便秘の予防にラジオ体操を取り入れ、腸の動きを活発にするよう支援し、スムーズな排便につなげています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師へ排便状況を伝え適宜相談し、内服のコントロールも行っている。また朝のラジオ体操や日々の活動の中で動きを取り入れるようにし、体内・外から働きかけるように工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望の際、その都度その方にあわせた湯温に調整している。拒否する方も無理には誘わず、時間をあけて再度誘ってみて、快く入った時は、どのような声掛けを行ったかなどを情報共有できるよう努めている。一人で入浴できる方へは、ゆっくりと入れるよう配慮しつつ、安全に努めている。	週に2回～3回の入浴支援をしています。入浴を好まれない場合には、無理に勧めず、時間をあけて誘うなどの工夫をしています。体調が整わない場合には後日入浴できるようにしています。時には季節の湯を準備して楽しめるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や騒音に配慮して、良眠出来る環境作りに努めている。寝付きにくい方にはしばらく付き添い、空腹の訴えがある方には温かい飲み物や汁物を用意するなど、安心して眠れるようにしている。 また、高齢で身体的に起きている事がしんどい方には、日中も臥床を促し安静を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々のケースファイルに服用して居る服薬の情報を添付しており、いつでも確認できる。必要に応じて、服薬介助や確認を行っている。</p> <p>また誤薬のないように服薬前に必ず名前の付いたファイルに指示薬を入れることで、服薬前にもう一度名前の確認ができるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事、洗濯等何らかの形で役割が持てるようにし、実際の行動は無くとも「洗濯するのでお留守番よろしく」「この漢字どう書くのかな？」など形が残らない役割も重要と捉えている。その人のできる役割や楽しみごとを検討し、介護計画やケース記録に項目を設けることで、職員が情報共有でき、日々の生活で組み込まれるように支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の気分や希望、目的や本人の状況に合わせて、また家族の協力も得て外出を行っている。天気の良い日には玄関先まで行き、外気に触れる機会を作っている。 また外出しやすいようにドライブがてらにユニットで夕食の機会を作り、共有できる喜び、楽しみを支援している。 地域の方には、校区での行事(花見や祭りなど)に招いてもらい、協力を頂いている。	買物、散歩、近くのレストランでの外食、喫茶店で茶菓を楽しむなど、職員は利用者が日常的に外出できるように支援しています。隣接する特養やデイサービス利用者との合同イベントに出かけることも多くあります。また、家族との外出の機会もあり、職員は利用者一人ひとりの外出状況を一覧にして支援に活かしています。年間を通じては、花見、祭り、紅葉見学、ドライブ、外食等、出かける行事も多く設定しています。	ホームでは利用者が施設内の生活に留まらず、住みなれた地域や社会とのかかわりが継続できるように、日常的な外出支援をさらに増やすよう取り組む予定にしています。ユニット毎に小人数で出かける機会を増やすことで、利用者一人ひとりの外出の機会が増えるよう取り組むことを検討しています。今後、取り組みの成果が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に応じ小遣いを持ってもらい、施設内の自動販売機などにて自分で購入出来るようにしている。 また外出時にその人の買い物などを一緒に行い、お金は所持していなくても、生活に関わるお金を意識できるようにするなど工夫している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人と家族との電話は、なるべく希望時にできるように対応している。また職員が家族へ何らかの報告をする機会を使い、本人と話しをしてもらうなど対応している。自筆能力や認知能力の低下などで手紙のやりとりは行えていないのが現状。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活音、匂い、音楽、季節感を意識的に且つ自然に取り入れている。緑や花、その季節に合った物を置くことで季節感を出したり、居間にはソファを置きいつでもゆったりと過ごせるように配慮したりと、家庭的な雰囲気作りを努めている。また利用者のお互いが使いやすいように常に配置や環境作りを工夫している。	食堂と居間のフロア、居室フロアがそれぞれ分かれており、利用者は階段やエレベーターを活用して居間と居室を自由に行き来しています。廊下やトイレ、浴室などの共有空間が広く、利用者はゆったりと生活しています。日当たりの良い居間やベランダからは街並みが眺望でき、開放感を味わうことができます。ホーム内の各所に活花や観葉植物等を置いて、利用者が季節感を味わえるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになる事ができたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブルと椅子の他、ソファを置いており、また廊下にもソファを設置し、いつでもゆったりと過ごせるように配慮している。肘掛け椅子の配置を検討したり、小テーブルを利用したり、一人一人の居場所が確保できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の関わりで本人や家族に聴くようにし、使い慣れた物を持ち込むことで殺風景にならないようにし、居心地よく過ごせるようにし、また使いやすさや事故予防の点においても工夫・配慮している。	居室は全室に大きな窓があり、明るく清潔に整えられています。利用者は自作の絵画、家族の写真、仏壇、テレビ、時計、机やイスなどの馴染みの家具を使いやすく配置して、居心地良く過ごせるようにしています。職員は利用者が自宅から馴染みの品や家具等を持参するよう勧め、今までの生活習慣を継続できるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過度な見守りや付き添いは避け、事故に配慮しつつ、利用者自身が選択し移動できるようしている。苑内には各箇所の手すりを設置。エレベーターの使用も自由に出来るようにするなど、少しでも自立が出来るように配慮している。		